

米ペンシルベニア州立大からの一行が来日 20日午前図書館3階で発表会

米ペンシルベニア州立大学（PSU）の9人の学生がこの14日に茨城大学水戸地区を訪れ、20日までの日程で、講義に出席するなどの茨大生との間で交流事業を続けている。

対応しているのは、農学部、工学部、理学部、教育学部、人文学部の約50人の茨大生で、9つのグループに分かれ、日本語に不自由なPSU



生の通訳兼案内役をこなしている。最終日の20日午前9時半からは、図書館3階のライブラリーホールで、1週間の異文化体験についてPSUの9人が発表する。予約などは必要ありませんので、奮ってご参加下さい。

交流事業は、昨年続く2回目。茨大にとっても画期的な相互交流型で、この9月には、今度は、茨大生がPSUを訪れ、現地で、交流する段取り。



初日の14日は、午前10時に図書館前に集合、ライブラリーホールで、人文学部の永井典子教授の英語による

講義「The Japanese Language: So interesting to learn it!」の聴講からスタートした。終了後は、人文学部に移動、9グループに分かれた茨大生約50人が拍手する中を入室した。



冒頭、三村信男学長が、「1週間の茨大での交流事業を楽しん



てください」と挨拶。これに呼応して、引率役のグレッグ・スミッツ PSU 准教授が、「大勢の茨大生に歓迎していただきありがとうございます。お

世話になります」と応えた。

終了後は、留学生センターの杉浦秀行准教授による茨大についての講義やマジックサークル「アンビシャス」の奇術や剣道部の稽古などを見学するキャンパスツアーを楽しんだ。



2日目は、教育学部の石島恵美子准教授の日本料理の実技に挑戦、人文学部の付月准教授の「Japan's challenges to a multicultural society」も聴講した。

3日目の18日は、大学の所有するバスを利用して偕楽園や千波湖を散策の後に、笠間市へ足を伸ばす。最終日の20日は、パワポなどを活用して9人がプレゼンテーションを披露、その後、ささやかな「お別れ会」を開催する。(終)

